

## 次号予告

### 特集 地方創生をORする—エビデンスを生かした戦略展開—

政策情報を効果的に活用する政策形成

—政策形成に不可欠な「情報」の捉え方—.....高木昭美 (芝浦工業大学)

市民協働による地域の将来像作成と実現のための進捗管理の手法—エビデンスに基づく合意形成・地方創生

プランづくり—...金 再奎・岩川貴志・河瀬玲奈・内藤正明 (滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)

住民主導の地域社会改善の仕組み作り

—ながくて幸せのモノサシづくりと地域生活改善プロセス評価手法の試み—...草郷孝好 (関西大学)

日本のデータ利活用の拠点をめざす和歌山県の取り組み

—総務省統計局・(独)統計センターの移転を見据えて—.....大石 崇 (和歌山県庁)

DESTINATION・マーケティング時代のツーリズム情報の収集と活用.....大井達雄 (和歌山大学)

大規模災害が想定される地域に暮らす在宅療養者のリスクマネジメント

—公助、自助、共助のバランスの取れた備えのデザイン—.....畑 正夫 (兵庫県立大学)

## メーリングリストに登録しよう

会員の方は、本学会のメーリングリストに登録すると、学会ならびに各研究部会の主催する研究発表会・セミナー等の催し物に関する最新情報が得られます。登録方法については、<http://www.orjs.or.jp/members/mlhowto.html>をご覧ください。

## 編集後記

●今回の特集は「さきがけというフロンティアで探求する情報系研究者達」でした。HPに記載されているこのプログラムの目的は、「本研究領域では、ビッグデータの複数ドメインに共通する本質的課題を解決し、様々な分野のビッグデータの統合解析を可能にする次世代基盤技術の創出・高度化・体系化を目指します。」ということです。勝手に理論研究が中心という思い込みをしていますが、そうではなく「他分野との積極的な連携・融合」という方針も掲げられていました。この方針は看板倒れではなく実際に、そのとおりの基準で研究領域が選択されているように感じました。

●編集委員の仕事上、各種の記事を目にする機会は多くあるのですが、今回の記事は、特に研究の動機・背景に関する説明が専門外の方にも理解することができるように、

しっかり記述されていたように思います。当たり前のことなのかもしれませんが、単に新しい結果を出すというだけでなく、素朴なモチベーションと先行結果を含めた周辺の関連話題との位置関係を、わずかなページ数の中で明確にされていました。執筆陣の先生方の研究が、研究領域として採択されたのも、これらの理由があることは、疑いなくいでしょう。

●研究上、何かしら突出した成果を挙げるために、このような異色のファンドが存在することは非常に心強いと思いつつも、私個人としては、何らかの意味で新しく有用な結果を出す方法は、あらゆる可能性があってほしいと思っており、全体としては本プログラムのような研究が旗振り役とはなりながらも、情熱と野心をもった個人々が、様々な方法で結果を出されることを願っています。(原田耕平)

## オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 猿渡 康文 (筑波大学)

特集担当編集委員 中原 孝信 (専修大学)

委員 池辺 淑子 (東京理科大学)、石井 儀光 (国立研究開発法人建築研究所)、井床 利生 (日本アイ・ビー・エム株式会社 東京基礎研究所)、鶴飼 孝盛 (慶應義塾大学)、小林 隆史 (立正大学)、榎原 静 (株式会社東芝)、佐久間 大 (防衛大学校)、笹谷 俊徳 (東京ガス株式会社)、佐藤 圭介 (公益財団法人鉄道総合技術研究所)、高野 祐一 (専修大学)、中原 孝信 (専修大学)、生田目 崇 (中央大学)、蓮池 隆 (早稲田大学)、原田 耕平 (株式会社NTTデータ数理システム)

本誌に掲載された記事についての著作権は、公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

## オペレーションズ・リサーチ

平成29年4月号 第62巻 第4号 通巻676号

代表者 大山 達雄

発行所 公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都千代田区岩本町1-13-5 サン・チカビル7F

電話 03-3851-6100 FAX 03-3851-6055 〒101-0032

<http://www.osrj.or.jp/>

編集人 猿渡 康文

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-15-5 〒151-0051

・本誌購読のお申込みは、日本オペレーションズ・リサーチ学会へ。

・本誌への広告のお申込みは、明報社 (Tel 03-3546-1337) へ。